



横浜ビー・コルセアーズ #13

山田 謙治

やまだ けんじ / 2001年度卒 / 180cm / PG / 神奈川県出身 / 能代工でキャプテンを務め、インターハイ2連覇、ウインターカップ優勝を経験。

「怒られっぱなしの3年間。優勝できてホッとししました」

入 学当初は、まず秋田県が分からないうえ、慣れない雪や寒さにも苦労しました。また毎日の練習も大変で、特に毎年春先に行う走り込みは相当きつかったです。でも入学を決めたのは自分だし、親も否定せず送り出してくれたので「やるしかない」と思って必死にやっています。

と2冠できたのは本当に良かったです。振り返ると、3年間、自分は特に怒られっぱなしでした。監督(加藤三彦コーチ)に唯一褒められたのは、2年のインターハイ(VS北中城)残り0.1秒でフリースローを決めて逆転した試合。あのときだけは「今日はお前のお陰で勝った」と言われましたが、それ以外は「怒られていました。ただ、3年の冬に優勝したあと、監督が取材で自分のことを「あと3年能代に残ってほしい」と言っていたそうです。正直絶対に無理ですが(笑)、その言葉は今でも印象に残っています。とにかく苦しかったのですが、あの3年間があった良かったと思うことはたくさんあります。今の自分のバスケットに役立つ部分も多いですし、メンタル面も鍛えられたと思います。

3年間で印象に残っているのは3年のウインターカップ。優勝してホッとすると同時に、「やっと終わったな」という感じでした。やはり能代工として、「勝たなきゃいけない」という思いは強かったです。しかも前年の冬、桜井良太選手(北海道)のいる四日市工に初戦で負けて、秋田に帰ってからの練習が本当にキツかったです。僕もそこから数か月ずっとBチームに落とされて苦しい思いをしたので、3年になって夏・冬

僕らの能代工高時代。

今年度は、過去58回の全国制覇を誇る名門・能代工高の全国初優勝から50周年。

そんな節目を記念し、6月10、11日には能代市でイベントも開催される。

そこで同校OB、山田謙治選手(横浜)と満原優樹選手(SR渋谷)に高校時代の思い出を聞いた。

「1プレイ1プレイで『能代工らしさ』を譲らない」

中 学生のときに初めて練習を見に行き、体育館に入った瞬間、独特の雰囲気や匂いを感じました。重みがあるというか、空気が違う。「これが能代工か」と思ったことをよく覚えています。

入学して最初は、練習面も私生活も慣れるのに苦労しました。あまり記憶がないくらい、毎日の練習をこなすのに必死でした。すごくバスケットに打ち込める環境でした。一番の思い出は3年のインターハイ。1、2年のとき勝てなくて悔しい思いをして、とにかく必死に練習してきたので優勝できてうれしかったです。僕らの代は3年のときに「秋田(わか杉)国体」があり、周りから「絶対勝つ」と言われていました。でも僕は、そういう周

りに人たち以上に、自分たち自身で「勝たなきゃ」という気持ちが強かったです。だからこそ、インターハイと国体で優勝できたのだと思います。当時のチームメイトは、同じ苦しみ乗り越えた仲間なので、今も変わらず仲がいいです。

能代工にとって、準優勝も負けは負け、優勝以外は許されないチームで、それは僕が在籍していた頃よりもっと昔から偉大な先輩たちがいて、長年結果を積み上げてきた伝統校だからこそです。その誇りは忘れられないですし、勝ち負けはもう関係ない。2つのルースポールにしろ、走ることにしろ、ディフェンスにしろ、1プレイ1プレイで「能代工らしさ」を求めなければいけない。そこだけは絶対に譲ってはいけないと思います。



サンロッカーズ渋谷 #0

満原 優樹

みつはら ゆうき / 2007年度卒 / 198cm / PF/C / 神奈川県出身 / 能代工時代は、インターハイ優勝、秋田わか杉国体優勝、ウインターカップでは3位に。

1967年・初優勝した元キャプテン山本 富美男氏に聞く能代工高時代

「練習どおりの逆転劇でした」

田舎のとにかく小さいチームで、当時は全国優勝なんて夢のまた夢でした。ただ、2年のインターハイ、1点差で負けた晋志野がそのまま優勝したので、「ある程度は通用するかもしれないな」と。それで3年の国体、残り3秒で逆転して優勝できました。実は日頃から、3分間で10点差を巻き返す練習を死ぬほどしてきたんです。今でも覚えています。決勝は残り2分58秒で2年の若谷がフリースローを決めて8点差。まさに練習どおりの展開で、逆転することができました。練習は厳しかったのですが、自分は兄がキャプテンだっ

たので諦めるに諦められなかった(笑)。足の指がマメだらけでも、休むわけにはいきませんでした。でも身長小さい自分でも大学、実業団までバスケットができたのは、本当に高校で鍛えられたお陰です。

その後、多くの選手が「能代に行きたい」と来てくれて、勝つことが当たり前になりました。今は歯がゆい状況です。能代工のファンは、全国に大勢います。それは全国大会に出れば選手自身が感じるものだろうし、その中で成長すると思います。とにかくまずは全国大会に出て、ファンの期待に応えてほしいです。

全国初優勝から50周年の節目に! 6月10&11日にイベント開催!!

今年は能代工高が全国で初めて優勝してから50周年。また、30回目の「能代カップ」(5月3~6日)が開催されるメモリアルイヤーで、6月10、11日に能代市総合体育館等でイベントが開催される。

今回のイベントには、現在Bリーグや大学で活躍している選手たちを筆頭に各年代のOBが大勢集結してゲームを行う予定。この機会に、ぜひ「バスケの街能代」に足を運んでみては? 詳細はP191をチェックしよう